

# 地域と学ぶ

27

山形大学地域教育文化学部

「英語を使うことが楽しいと高校生が言ってくれてうれしかったです!」。私の研究室では、「どうしたら英語が上手になるのか」ということを研究しています。研究方針は、地域の小中学校と連携して、すぐ役に立つ、実践的な英語教育の方法を開発することです。研究室のメンバー(教職大学院の学生もいます)はみんなが助け合い、楽しく課題に取り組んでいます。例えば、研究室所属の4年生は、山形大に來ている留学生を集め、山形中央高と山形商業高に伺い、英語が話せるようになるための授業づくりについて研究しています。冒頭の言葉は、高校生と一緒に活動をした

英語教育・異文化理解・英米文学 金子 淳 准教授



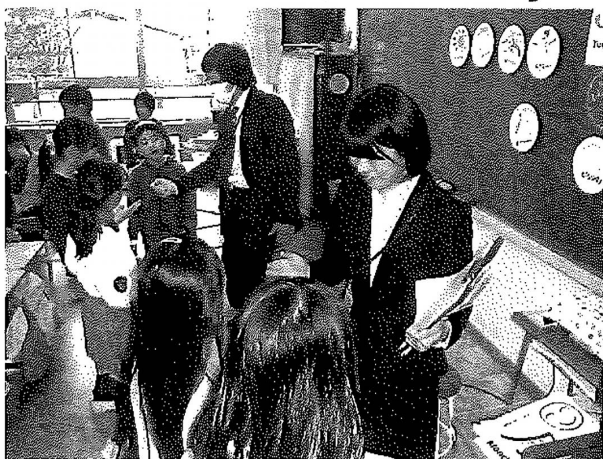
▽1965年生まれ、秋田県出身。  
山形大着任は2013年。

## 児童生徒と実践英語研究

時の感想を彼が述べたものです。  
研究室所属の3年生は山形市の出羽小を訪れ、小学校で英語が教科となる際、どのように対応していくべきかを研究しています。写真はその様子です。「大学

生のお兄さん、お姉さんと一緒に活動できてとても楽しかった」という声が、子どもたちから寄せられています。もちろん、地域の方々に

お役に立てるよう手伝わせていただいています。出羽小をはじめ、山形市の明治小、大郷小では現在、文部科学省が勧める学習到達目標(CAN-DORリスト)の作成に取り組んでいます。私は、これまで文科省



研究の一環で児童と触れ合う学生  
11月14日、山形市出羽小

や山形県教育委員会の指導の下、CAN-DORリストに関する仕事をしていきます。その経験と知識を生かし、自分の研究成果も踏まえて助言させていただいています。つまり、大学と地域の学校がうまく連携し、お互いに協力し合う感じになっています。私は、地域の皆さんや学生と一緒に交流し、取り組んでいくことに大きな喜びを感じています。これからも皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。11月1回掲載します